

<国際宝飾展 2012>

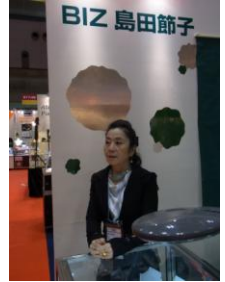
今年もこの季節が来た。

金色とダークグリーン（BIZ カラー）のいがいが金平糖もよう（BIZ ジュエリーにも度々登場）のブースを自力で制作。

沢山の話も聞いた。中でも震災に遭われたジュリー店の話。“ジュエリーは時にその人の ID ともなり家族の証明にもなる。贅沢品などという弱いものではない。心の灯りであり勇気を与える力強い励ましの言葉にもなる、かけがえのないものと改めてジュエリーの大切さを認識した” というもの。

肝心の BIZ の反応。“いつも軸足がぶれず夢を与える作品創り。一般にいうデザイナーものとは一線を画す”（いえ、いつも迷いの連続です）。“他の商材と全く別の世界観”（それゆえに一般向きでなくピンポイントの人が喜ぶ。う～ん、そればかりでも・・・）

結果はいつも同じ。自分で素敵と思っても誰もがそう思うわけでもない。それは当然。でもそこを突き抜ける力が欲しい。



<暖かいジュエリー>



いつ頃のことか大分前に、それはそれは美しいルビーにダイヤを配したジュエリーを見た。イギリス王室の宝飾品だったかもしれない。ピジョンブラッド（鳩の血）と呼ばれる最高級のルビー。すさまじい程の美しさ。気品を飛び越え凶暴ささえ感じる赤。首を切られた鳩から滴り落ちる血。その名前がそう感じさせるのか、それとも究極の美しさとは人を寄せ付けない、かくも孤高なものなのか。最高の身分の方のジュエリーとはかくあるものだったのか。愛されるのでなく畏怖させるためのジュエリー。

ルビーの赤には色々ある。紫をおびたような赤、可愛らしさを感じるオレンジがかった赤、優しい赤色というのものもある。貴族でも芸能人でもない普通の私。拒絶するような冷たいジュエリーでなく暖かさと人に寄り添ってくれる、明るく自信を取り戻し心を引き締めてくれる、やはりそんなジュエリーが好きだ。気がつけば、ずっと以前から私にはダイアやハイジュエリーへの憧れもなかった。

<シマダワールド>

“シマダワールド” ってどんな世界？

“これってシマダワールドそのものね”と言う会話。仕事場もシマダワールド、トイレに至ってはシマダワンダーワールドだそうである。

作品のデザイン・創りを考えている時、夢中の余り“これは売れるか”という考えはすっぱり抜けていることは度々。やがて冷静さも出てくる頃仕上がり

“えっ？こんなもの創っちゃったの？ でも面白いじゃない。でも売れなさそう”。どうやらこんなものそのワールドに属するらしい。なんでこんなに？と凝りに凝ってしまったたり、“宇宙がテーマでしょう”という方は多く、優しく癒されるエネルギーを感じるそうである。これは仕事場の方も同じらしい。

まあ、たしかにどちらも私ではありますね。でも、やはりこれで良いのでしょうか。

✦トイレ内 アフリカの木彫りの動物たち

<これもシマダワールド？>



～華麗な地球～

オレンジ模様の華やかで愛らしい色を放つ
こんな水晶の姿もあったのか 地球の不思議

水晶 ルビー原石 1.34ct ダイア 0.201ct K18YG



～草原のネックレス～

クリソコーラ プリナイト ペリドット
シルバー（クラスプ）